

## &lt;2023 年度委託調査実施状況&gt;

## 1

## 愛知県を巡る社会経済状況の変化に関する県民意識調査について

「あいちビジョン 2030」策定後の3年間では、新型コロナウイルス感染症の流行やデジタル化の進展、少子化の進行など様々な社会経済状況の変化がありました。これらの変化による県民の皆様の仕事や生活への影響を把握し、ビジョンのフォローアップに役立てるため、愛知県在住の方を対象に意識調査を実施しました。

## 事業の概要

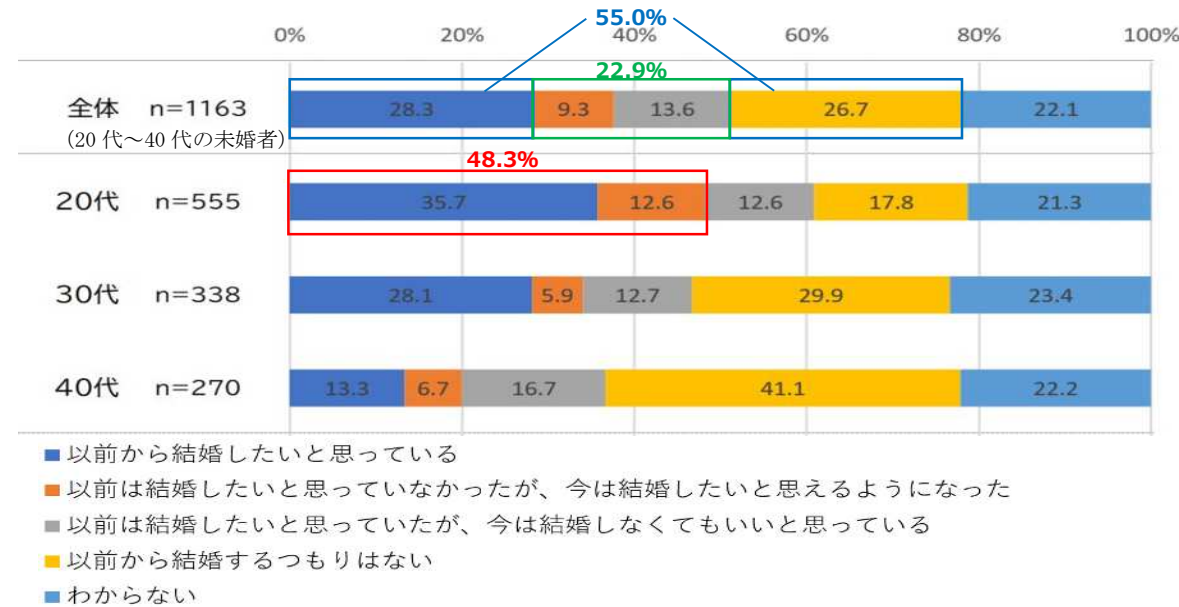
調査方法	インターネット
調査対象	4,000 人 (インターネットモニター (GMO リサーチ) に登録する満 20 歳以上 69 歳以下の県民)
調査時期	令和 5 年 7 月 18 日～令和 5 年 8 月 8 日
回収結果	4,000 人 (20～60 歳代の男女各 400 件) ※また、名古屋・尾張・西三河・東三河の各地域で 900～1100 人となるよう設定
調査内容	<p>○ 属性設問：10 問 (年齢、性別、居住地、学歴、職業、家族構成、収入)</p> <p>○ 本設問：41 問</p> <p>(1)少子化 12 問【重要政策の方向性④関連】</p> <p>主な質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この3年くらいで結婚観に変化はありましたか。</li> <li>・結婚観が変化した理由は何ですか。</li> <li>・結婚に対して前向きな人が増えるためにはどういったことが必要だと思いますか。</li> <li>・この3年くらいで子どもを持つ(増やす)という意識に変化はありましたか。</li> </ul> <p>(2)ワーク・ライフ・バランス 9 問【重要政策の方向性⑤関連】</p> <p>主な質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ワーク・ライフ・バランス」の満足度について、「今から3年くらい前」と「現在」の点数をお答えください。</li> <li>・この3年くらいで働き方に新たに取り入れられて、今も継続しているものはありますか。</li> </ul> <p>(3)リカレント教育・リスキリング 8 問【重要政策の方向性③関連】</p> <p>主な質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び直し(リカレント教育・リスキリング)に関心はありますか。</li> <li>・関心がある理由は何ですか。</li> <li>・関心がない理由は何ですか。</li> </ul> <p>(4)デジタル化 4 問【重要政策の方向性⑤、⑧関連】</p> <p>主な質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場や生活においてデジタル化が進んでいると感じますか。</li> <li>・デジタル化が進むことで仕事や暮らしがどう変わったと感じますか。</li> </ul> <p>(5)東京一極集中 7 問【重要政策の方向性⑨関連】</p> <p>主な質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この3年くらいで、首都圏への移住に対する考えに変化はありましたか。</li> <li>・首都圏に移住したいと考える理由は何ですか。</li> </ul> <p>(6)自由記述 1 問</p>

# 愛知県を巡る社会経済状況の変化に関する県民意識調査 モニター調査結果（概要）

## 1 少子化について【重要政策の方向性④関連】

(1) 結婚観(20~40代の未婚者)について、20代では、結婚に前向きな回答(「以前から結婚したいと思っている」+「以前は結婚したいと思っていなかったが、今は結婚したいと思えるようになった」)が48.3%となっている。(赤枠)

- 全体で、結婚観に変化はないと答えた人の割合が55.0%(青枠)である一方、結婚観に変化があったと答えた人の割合は22.9%(緑枠)となっている。
- 結婚に対して前向きな変化は、20代が他の年代よりも大きいですが、後ろ向きな変化は、40代が一番大きいものの、年代による大きな差は見られなかった。



(2) 結婚観の変化の理由について、前向きな変化では59.3%が、後ろ向きな変化では33.5%が「自分(もしくはパートナー)が年齢を重ねたから」と回答し、最も割合が高い。(赤枠)

- 両方の変化を比較すると、前向きな変化は、「周囲(友人・知人)の結婚状況の変化」、「パートナーが結婚したいと望むから」の割合が多く(緑枠)、後ろ向きな変化については、「経済状況の変化」、「自分(もしくはパートナー)の仕事(勤務先や稼業)の状況の変化」、「自分(もしくはパートナー)の健康状態の変化」の割合が高い。(青枠)

	全体	問4 問3のように考えが変化した理由は何ですか。											
		意識の変動による影響	年齢を重ねたことによる影響	自分自身の健康状態	自分自身の収入・稼業の状況	自分自身の仕事(勤務先や稼業)の状況	周囲(友人・知人)の結婚状況の変化	経済状況の変化	生活状況の変化	状況の変化	オラマインでの交流	その他	わからない
以前は結婚したいと思っていなかったが、今は結婚したいと思えるようになった	108	16	64	11	10	12	3	24	9	6	4	5	9
	100.0	14.8	59.3	10.2	9.3	11.1	2.8	22.2	8.3	5.6	3.7	4.6	8.3
以前は結婚したいと思っていたが、今は結婚しなくてもいいと思っている	158	21	53	27	30	4	-	12	50	12	5	16	18
	100.0	13.3	33.5	17.1	19.0	2.5	-	7.6	31.6	7.6	3.2	10.1	11.4

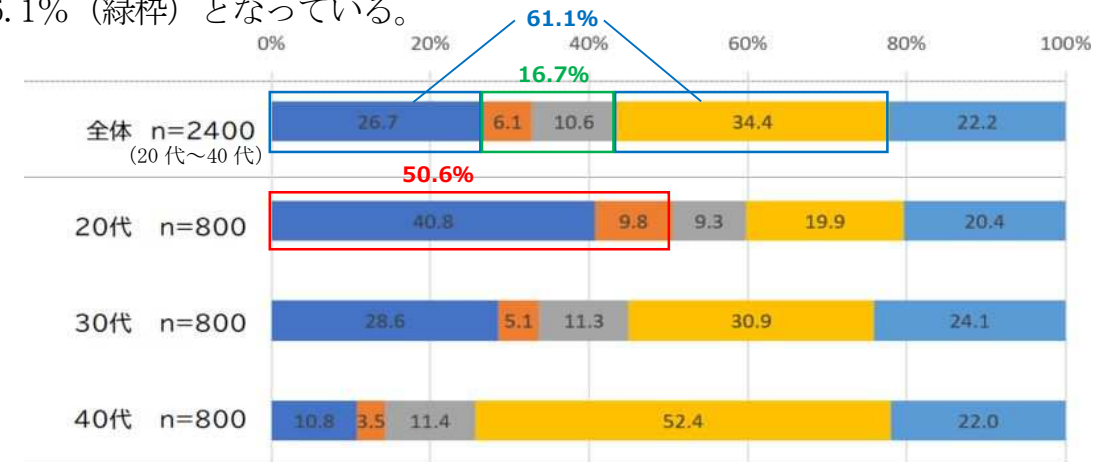
(3) 結婚に対して前向きな人が増えるためには、経済的な安定やメリットが必要との回答が多い。

- 全体では、「収入や貯蓄が増える」、「結婚による経済的なメリットが増える」、「雇用・労働条件が改善する」が上位3位の回答となっている。(赤枠)
- 男女別では、女性は、「出産・子育てによるキャリアへの不利益が解消される」、「家事・育児・介護をパートナー間で分担することが当たり前の社会になる」、「パートナーの戸籍に入ることやその家族との関係を強く求められない」といった非経済面の割合が高い。(緑枠)

	全体	問5 結婚に対して前向きな人が増えるためにはどういったことが必要だと思いますか。									
		雇用・労働条件が改善する	収入や貯蓄が増える	結婚による経済的なメリット(税控除・相続優遇等)が増える	不利益(出産・子育てによるキャリアへの不利益)が解消される	パートナーの戸籍に入ることを求められない	家事・育児・介護をパートナー間で分担することが当たり前の社会になる	夫婦別姓を認める	交際対象と出会う機会が増える	その他	わからない
全体	4000	1773	2393	1868	1555	629	1233	462	1082	71	663
	100.0	44.3	59.8	46.7	38.9	15.7	30.8	11.6	27.1	1.8	16.6
男性	2000	845	1171	895	644	211	355	163	517	43	385
	100.0	42.3	58.6	44.8	32.2	10.6	17.8	8.2	25.9	2.2	19.3
女性	2000	928	1222	973	911	418	878	299	565	28	278
	100.0	46.4	61.1	48.7	45.6	20.9	43.9	15.0	28.3	1.4	13.9

(4) 子どもを持つ(増やす)意識(20~40代)について、20代では、子どもを持つことに前向きな回答(「以前から子どもを持ちたいと考えている」+「以前は子どもを持つことは考えていなかったが、今は子どもを持ちたいと考えている」)が50.6%となっている。(赤枠)

- 全体では、子どもを持つ意識に変化はないと答えた人の割合が61.1%(青枠)の一方、変化があったと答えた人の割合は16.7%。そのうち、前向きな変化は6.1%(緑枠)となっている。

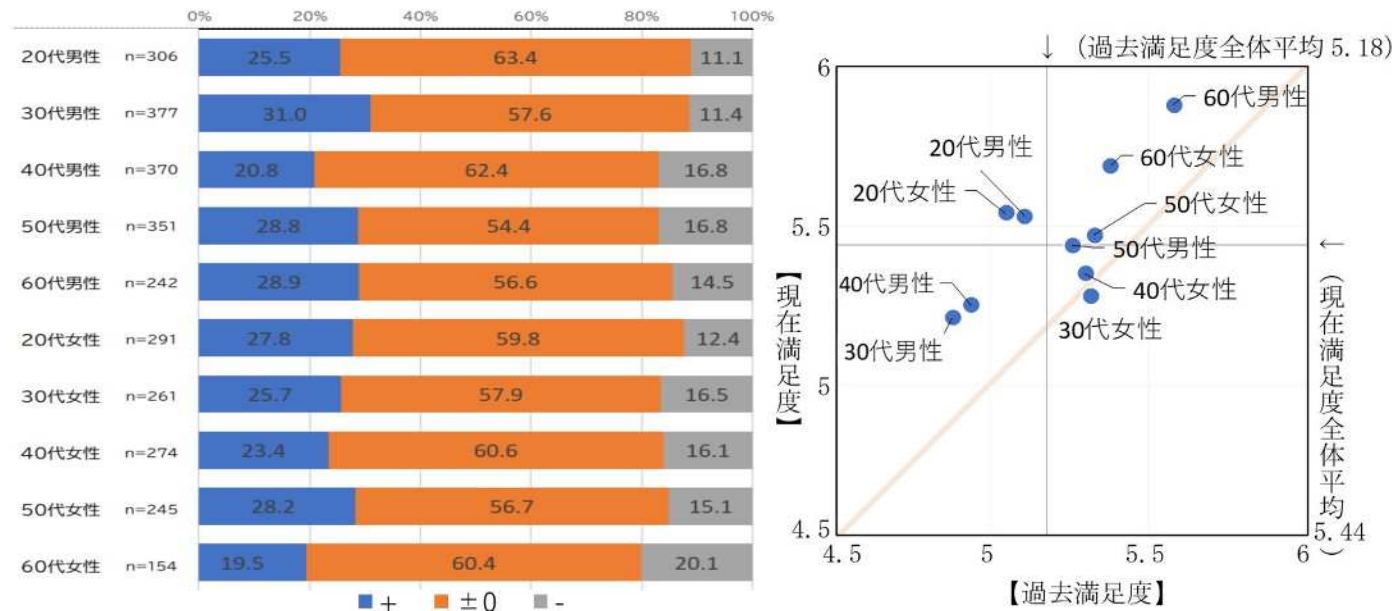


- 以前から子どもを持ちたい(増やしたい)と考えている
  - 以前は子どもを持つ(増やす)ことは考えていなかったが、今は子どもを持ちたい(増やしたい)と考えている
  - 以前は子どもを持ちたい(増やしたい)と考えていたが、今は子どもを持つ(増やす)ことは考えていない
  - 以前から子どもを持つ(増やす)ことは考えていない
  - わからない
- ※構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とならない場合がある。

## 2 ワーク・ライフ・バランスについて【重要政策の方向性⑤関連】

(1) ワーク・ライフ・バランスの満足度の変化について、この3年くらい前と現在では、「変化なし」の割合が最も高い。

- 過去と現在の満足度の全体平均は、5.18点から5.44点となっている。



※各年代で家事専業、無職を除く  
 ※ワーク・ライフ・バランスの満足度の変化は、「現在の点数」から「今から3年前の点数」を引いた値とし、+の場合は「満足度が上がった」、±0の場合は「変化なし」、-の場合は「満足度が下がった」とする。

(2) この3年くらいで、新たに取り入れられた働き方で、今も継続しているものは、「ない」という回答が最も割合が高い。

- 全体では、「ない」が64.2%で最も割合が高く、次いで「リモート会議」が15.6%、「テレワーク」が15.5%となっている。(赤枠)
- 職業別でみると、「民間企業・団体の経営者、役員」や「民間企業・団体（従業員数300人以上）の勤め人」において、「リモート会議」や「テレワーク」が継続しているとの割合が高くなっている。(緑枠)

	全 体	問15 この3年くらいで働き方に新たに取り入れられて、今も継続しているものはありますか。						
		ワ テ レ ワ ー ク	イ ク フ ム ス レ ッ タ ツ	ト リ 会 モ 議	社 分 散 出	兼 複 業 業	み え 日 週 を 休 休 超 2	な い
全体 (家事専業、無職、学生除く)	2871	444	227	447	74	113	287	1844
	100.0	15.5	7.9	15.6	2.6	3.9	10.0	64.2
職業								
自営業(農林、商工サービス、建設業等の事業主及び家族従事者)	173	14	9	8	4	10	12	134
	100.0	8.1	5.2	4.6	2.3	5.8	6.9	77.5
公務員	115	21	11	17	9	2	15	70
	100.0	18.3	9.6	14.8	7.8	1.7	13.0	60.9
教員	61	3	5	4	1	-	6	44
	100.0	4.9	8.2	6.6	1.6	-	9.8	72.1
民間企業・団体の経営者、役員	76	23	13	20	5	9	2	35
	100.0	30.3	17.1	26.3	6.6	11.8	2.6	46.1
民間企業・団体(従業員数300人未満)の勤め人	723	65	47	74	14	24	65	514
	100.0	9.0	6.5	10.2	1.9	3.3	9.0	71.1
民間企業・団体(従業員数300人以上)の勤め人	934	277	136	291	38	41	70	445
	100.0	29.7	14.6	31.2	4.1	4.4	7.5	47.6
臨時雇用、パート、派遣	646	18	5	20	3	16	99	509
	100.0	2.8	0.8	3.1	0.5	2.5	15.3	78.8
フリーランス	79	17	1	11	-	9	10	44
	100.0	21.5	1.3	13.9	-	11.4	12.7	55.7
その他の有業者	30	4	-	-	-	2	4	21
	100.0	13.3	-	-	-	6.7	13.3	70.0
その他	34	2	-	2	-	-	4	28
	100.0	5.9	-	5.9	-	-	11.8	82.4

## 3 リカレント教育・リスキングについて【重要政策の方向性③関連】

(1) 学び直しへの関心は、全体で「もともと関心はない」の回答が43.8%と最も割合が高く、どの年代でも回答の傾向は同じである。(緑枠)

- 20代、30代は、学び直しに関心がある(「もともと関心があった」+「最近関心を持つようになった」と)の回答が30%以上で、他の年代と比較すると高い。(赤枠)

	全 体	問22 学び直し(リカレント教育・リスキング)に関心はありますか。				
		あ も と も と 関 心 は あ っ た も と 関 心 は	よ 最 近 に 関 心 を 持 つ な っ た	な 最 近 に 関 心 が な く な っ た	な も と も と 関 心 は な い	わ か ら な い
全体	4000	456	674	276	1751	843
	100.0	11.4	16.9	6.9	43.8	21.1
年代						
20代	800	87	190	45	282	196
	100.0	10.9	23.8	5.6	35.3	24.5
30代	800	97	159	43	321	180
	100.0	12.1	19.9	5.4	40.1	22.5
40代	800	98	133	53	355	161
	100.0	12.3	16.6	6.6	44.4	20.1
50代	800	80	93	57	411	159
	100.0	10.0	11.6	7.1	51.4	19.9
60代	800	94	99	78	382	147
	100.0	11.8	12.4	9.8	47.8	18.4

(2) 学び直しへの関心がある理由は、「自己啓発の意欲があるから」が49.6%で最も高く、関心がない理由は、「考えたことない」が28.4%で最も高く、次いで「経済的ゆとりがないから」が22.7%となっている。

- 関心がある理由として、20代、30代では、「転職や就職の意欲があるから」、「副業や兼業の意欲があるから」が全体と比べて割合が高い。
- 関心がない理由として、20代、30代では、「社内の支援制度がないから」、30代では「学ぶ時間がないから」が全体と比べ割合(赤枠)が高く、年齢が上がるにつれ、「そもそも学ぶ必要性を感じないから」、「考えたことない」の割合(緑枠)が高くなる傾向がある。

	全 体	問23-2 関心がない理由は何ですか。												
		な 社 内 か ら の 支 援 制 度 が な い	な 転 職 や 就 職 の 意 欲 が な い	な 複 業 や 兼 業 の 意 欲 が な い	い か ら 自 己 啓 発 の 意 欲 が な い	影 上 司 や 同 僚 、 知 人 の 支 援 が な い	こ れ ま で の 学 び 直 し の 成 果 が な い	学 ぶ 時 間 が な い	か 経 済 的 ゆ と り が な い	ら 業 務 上 の 必 要 性 が な い	感 じ な い か ら 学 ぶ 必 要 性 を 感 じ な い	考 え た こ と が な い	そ の 他	わ か ら な い
全体(※)	2027	255	291	175	304	35	71	389	460	188	400	575	37	78
	100.0	12.6	14.4	8.6	15.0	1.7	3.5	19.2	22.7	9.3	19.7	28.4	1.8	3.8
年代														
20代	327	57	44	16	67	11	19	65	62	27	45	90	2	10
	100.0	17.4	13.5	4.9	20.5	3.4	5.8	19.9	19.0	8.3	13.8	27.5	0.6	3.1
30代	364	66	58	32	51	7	13	113	96	28	58	92	7	17
	100.0	18.1	15.9	8.8	14.0	1.9	3.6	31.0	26.4	7.7	15.9	25.3	1.9	4.7
40代	408	55	50	49	65	6	14	91	113	33	75	105	8	13
	100.0	13.5	12.3	12.0	15.9	1.5	3.4	22.3	27.7	8.1	18.4	25.7	2.0	3.2
50代	468	46	66	45	63	5	16	79	111	52	105	139	7	23
	100.0	9.8	14.1	9.6	13.5	1.1	3.4	16.9	23.7	11.1	22.4	29.7	1.5	4.9
60代	460	31	73	33	58	6	9	41	78	48	117	149	13	15
	100.0	6.7	15.9	7.2	12.6	1.3	2.0	8.9	17.0	10.4	25.4	32.4	2.8	3.3

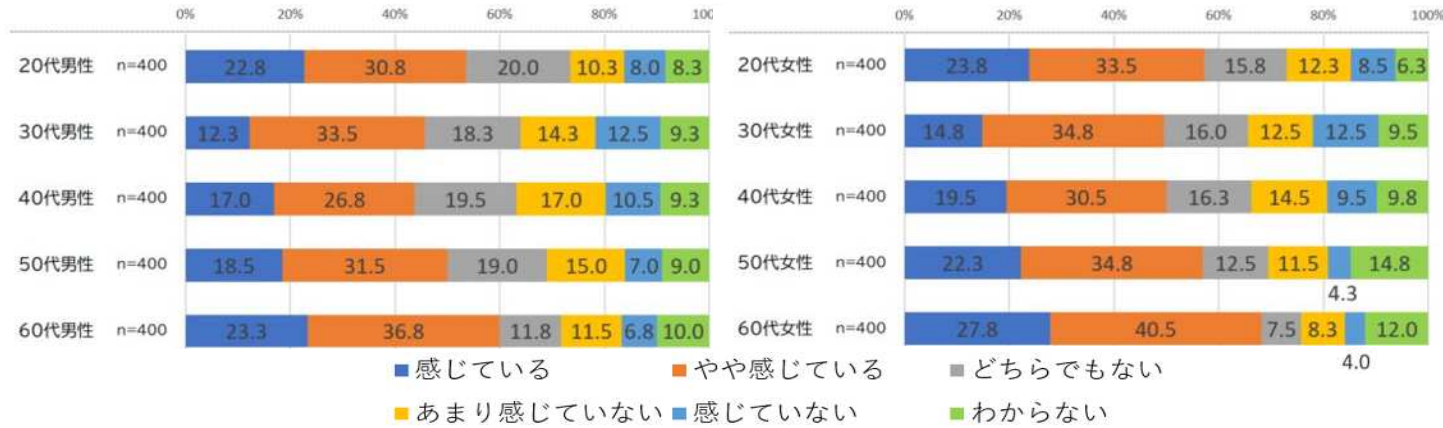
※学び直しについて、「関心がない」(「最近関心がなくなった」+「もともと関心はない」と)回答した方



#### 4 デジタル化について【重要政策の方向性⑤、⑧関連】

(1) 職場や生活におけるデジタル化が進んでいるかについて、各性・年代別で見ても「やや感じている」がいずれも最も高い。

- デジタル化が進んでいる（「感じている」＋「やや感じている」）と回答した人の割合は、20代を除き、年代が上がるほど高くなる傾向がある。



(2) デジタル化による変化について、全体と比較して、20代、30代は利便性の向上を感じている傾向がある一方、50代以上の女性は不安を感じている傾向がある。

- 20代、30代男女で「作業の時間が短縮した」との回答が多い。(赤枠)
- 「現金を使う機会が減った」、「買い物や手続きなどで外出必要がなくなった」との回答は、男性よりも女性が多い傾向がある。(緑枠)
- 「デジタル化についていけず困ることが増えた」、「個人データの悪用など不安が増えた」といった、デジタル化への不安に関する回答は、特に50代以上の女性の割合が高い。(青枠)

年代性別	作業の時間が短縮した	現金を使う機会が増えた	現金を使う機会が減った	外食の必要がなくなった	買い物や手続きが楽になった	単に手に入るモノや情報が豊富になった	デジタル化により困ることが増えた	個人データの悪用など不安が増えた	その他	特に変化はない	わからない
全体	888	1763	791	1376	559	963	28	607	430		
20代男性	144	156	99	126	30	54	-	51	40		
30代男性	108	161	71	113	40	60	2	69	62		
40代男性	85	164	76	125	53	82	6	81	48		
50代男性	83	165	60	132	48	87	3	84	29		
60代男性	64	175	56	162	64	116	1	63	36		
20代女性	126	190	111	152	34	76	4	41	40		
30代女性	97	184	102	132	45	108	3	57	54		
40代女性	67	174	92	138	68	99	4	60	44		
50代女性	53	184	70	140	74	125	4	58	48		
60代女性	60	210	54	156	108	156	1	43	29		

#### 5 東京一極集中について【重要政策の方向性⑨関連】

(1) 全体の75.0%が、この3年くらいで首都圏への移住に対する考えに変化はない（「以前から関心はない」＋「以前は関心があったが、今はない」）と回答している。

- 首都圏への移住に対する考えの変化は、「以前から関心はない」が73.2%で最も高く、次いで「以前は関心があったが、今はない」が7.6%となっている。(青枠)
- 関心があると回答した人の割合は、全体で9.1%となっている。(緑枠)
- 20代は、男女ともに移住に関心があると回答した人の割合が、全体と比較して高い。(赤枠)

年代性別	全体	以前から関心がある	以前から関心があったが、今はない	以前は関心があったが、今はない	以前から関心はない	以前は関心があったが、今はない	わからない	関心あり	関心なし
全体	4000	1.8	4.6	2.7	7.6	73.2	10.2	9.1	80.8
20代男性	400	4.5	11.5	5.3	12.3	52.3	14.3	21.3	64.6
30代男性	400	3.0	6.3	2.5	9.8	65.8	12.8	11.8	75.6
40代男性	400	1.5	4.0	1.8	8.5	73.5	10.8	7.3	82.0
50代男性	400	2.5	2.3	1.0	9.8	76.5	8.0	5.8	86.3
60代男性	400	0.5	2.5	3.0	6.3	79.5	8.3	6.0	85.8
20代女性	400	2.0	9.3	4.0	11.3	65.0	8.5	15.3	76.3
30代女性	400	1.3	2.8	2.3	5.0	76.8	12.0	6.4	81.8
40代女性	400	1.0	4.8	2.8	5.0	75.5	11.0	8.6	80.5
50代女性	400	0.8	1.0	1.5	4.5	82.8	9.5	3.3	87.3
60代女性	400	0.5	1.8	2.5	4.0	84.3	7.0	4.8	88.3

(2) 首都圏への移住に関心がある理由は、全体では「人・モノ・情報が集まっているから」が56.7%で最も高く、次いで「娯楽施設やイベントが集中しているから」が51.2%で高い。

- 年代別では、全体と比較して、「娯楽施設やイベントが集中しているから」を30代、40代が、「情報通信など成長している企業が集中しているから」を30代が、「首都圏は本部機能や企画部門などの会社の中核機能があるから」を40代が回答している割合が高い。(赤枠)
- 男女を比較すると、男性は「情報通信など成長している企業が集中しているから」、「首都圏は本部機能や企画部門などの会社の中核機能があるから」の割合が高く、女性は「人・モノ・情報が集まっているから」、「娯楽施設やイベントが集中しているから」、「保育や医療・介護などが充実しているから」の割合が高い。(緑枠)

年代性別	首都圏に人・モノ・情報が集まっているから	娯楽施設やイベントが集中しているから	情報通信など成長している企業が集中しているから	首都圏は本部機能や企画部門などの会社の中核機能があるから	首都圏に本部機能や企画部門があるから	首都圏に女性が活躍できる仕事が多いから	首都圏にパートナーがいるから	首都圏に親族がいるから	首都圏に行きたい大学が多いから	首都圏では人間関係が希薄であるから	その他
全体(※)	56.7	51.2	33.1	19.7	22.0	13.8	8.3	3.1	7.5	2.8	7.9
20代	58	50	40	22	21	13	8	3	5	2	7
30代	53.2	45.9	36.7	20.2	11.9	7.3	2.8	4.6	1.8	6.4	1.8
40代	29	33	22	13	15	6	7	1	4	2	4
50代	54.7	41.5	24.5	28.3	11.3	13.2	1.9	7.5	3.8	7.5	1.9
60代	47.6	47.6	28.6	9.5	14.3	4.8	11.1	8.9	6.7	11.1	4.4
男性	53.2	48.1	35.7	15.6	20.8	16.2	7.8	3.2	8.4	4.5	8.4
女性	62.0	56.0	29.0	26.0	24.0	10.0	9.0	3.0	6.0	7.0	1.0

※移住について、「以前から関心があり、移住を検討している」＋「以前から関心があり将来移住をしたい」と回答した方